

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方針
<p>めざす学校像 教育が充実した強い学校 ーポジティブシンキング、アクション、カンファレンスを通してー</p> <p>①教師が結果に手応えを感じながら働きたくなる学校 ②生徒がさらなる高まりを求めて学びたくなる学校 ③保護者・地域が安心して通わせたい学校</p> <p>めざす子ども像 優しさと逞しさをもち共に学び未来を創り出す子ども</p> <p>①礼儀正しく、挨拶と掃除ができ、勤労奉仕の精神に満ち、自ら進んで汗する生徒 ②いじめや差別を見抜き、許さない、強く逞しい心をもった生徒</p> <p>めざす教員像</p> <p>①教育的愛情に裏付けられた優しさと厳しさを兼ね備え、「授業で勝負」する教師 ②常に課題意識、危機意識をもち、集団作り、生徒指導に積極的に取り組む教職員 ③法令や服務規律を遵守し、生徒や同僚から信頼され、責任と矜持を保つ教職員 ④家庭や地域に積極的にかわかり、保護者や地域から信頼される教職員</p>		<p>指導力向上</p> <p>心の教育の更なる充実</p> <p>常に結果を指導との関係で捉える教育活動の更なる充実</p>	<p>・各種調査結果など検証改善サイクルの中で、時代が求めている教育を趨勢しながら、更に指導を充実させる。 ・コミュニケーションや授業参観を通して、個々の取組に寄り添い、モデレーションしながら自己指導力(特に授業力・生徒指導力)を更に高めていく。</p> <p>・道徳の時間の進化を図る。 ・アセスメントを行い、賞賛や具体策を示すとともに、意味付け・価値付け・方向付けを重視した教育活動展開していく。 ・授業など教育活動全てにおいて、まとめと振り返りの時間を大切に、思いやりのある判断力と自発的な言動を促し自己指導力を高める。</p> <p>・教育活動全般において、改善の具体的な指針となる項目(バックキャストイング・インテイクによる仮説検証的な項目)を設定した評価活動にシフトしていく。 ・重点目標や達成のための方策などではできる限り見える化(インプット→インテイク→アウトプット等)して、系統的、計画的な取組、スキルアップを図っていく。</p>
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
<p>・ポジティブシンキング、アクション、カンファレンスによる学校経営と職員の参画意欲の向上 ・次代が求める学力の形成 ・指導の改善や学びの改善を促す検証改善サイクルの確立</p>	<p>教職員、生徒、保護者等による年間を通した検証改善サイクルを確立する。機を逃さず、賞賛したり改善の視点を伝えたりする。</p>	<p>・教育活動全般について評価・面談を通じて、改善を促すことができた。学校の活性化を図ると共に、学校通信の発行や全職員での地域行事参加によって大局的な改善を促進できた。 ・生徒による授業評価をもとに具体的に授業改善の視点を伝えて改善を促した。不特定多数の保護者からの意見についても、一定の評価をいただいたり、建設的な意見をいただいたりできるようになってきた。1つ1つの声を大切に対処・進行管理・安定・チャレンジを一体とした教育活動を更に充実させていく。 ・結果を指導との関係で捉える学校文化、丁寧な結果説明が定着しつつある。 ・研修会が充実し、分析・改善・進行管理が徹底している。</p>	
	<p>スコープ&シーケンスを周知徹底し、取組の焦点化と進捗状況の管理、再発防止策・安定方策をトータルに捉えた教育活動を年間を通じて展開する。</p>		
	<p>生徒評価、自己評価において、授業がよくわかる、授業力向上を実感したと回答する生徒・教員の割合を、全教科とも85%以上にする。</p>		
	<p>各種学力調査結果等をもとに授業改善を行い、すべての生徒に対して、課題克服のための具体的な手立てを伝え、意欲を喚起し、年度末までにフォローアップを完了させる。</p>		
<p>・心の教育の充実 ・新たな不登校生徒を生まない体制と不登校生徒の学校復帰率の向上 ・特別支援学級や部活動の指導体制の強化</p>	<p>人の気持ちを考え、真のコミュニケーション力を身につけるために、考えをつくり交流する活動や、それを実現させる指導を年間を通して行う。</p>	<p>・道徳の時間の確保と充実を徹底した。それによって教育活動全般において、考えをつくる時間の確保、交流したり学んだことを伝えたりする活動が意図的に行われるようになってきた。前年比でトラブルが減少し、思いやりのある言動が多くなった。 ・知的理解と実践的行動力の一体化が進んでいる。いじめや差別の早期発見についての意識も高まってきた。障がい者や弱者の立場に立った言動ができる生徒が多くなってきた。 ・今後も、授業を含め各活動において感情交流を交えたまとめ、振り返りを行い、実践的行動力を培っていく。不登校は担当の関わり、担任の根気強い取組で復帰率が高くなっている。 ・ユニバーサルデザインに基づいた授業改善が進み、生徒の多様な関心に応える授業が展開できている。</p>	
	<p>人権に関する知的理解と価値的・態度的側面と技能的側面を意識した学習作りを行う。いじめや差別はどこの学校にもあるという認識を常にもち、未然防止、初期対応を全職員で徹底する。</p>		
	<p>アセスメントを実施し、生徒の人間関係を的確に把握し、そのスキルの定着を図り、不登校生徒復帰率を60%以上にする。教科指導などステップルールの組織的運用を図る。</p>		
	<p>特別支援学級の指導の充実と共に、通常学級においてもその手法を用いて個に応じた指導の充実を図っていく。部活動は外部指導体制を充実させる。</p>		
<p>・教職員の資質・能力の向上 ・道徳の時間における指導の充実 ・校種間・地域等との連携強化</p>	<p>実態を把握し授業改善などの具体的な視点を6月末までに、個々の教職員に理解させる。年内に伝えた視点について、改善が80%達成できるように指導助言を行う。</p>	<p>・目標管理当初申告を受けた全ての教職員との面談を通して、課題を明確にし、重点的な取組を共有した。小中連携については、代表者を中心とした情報交換を密にすると共に、部会毎の取組ががにできている。 ・若年教員を中心に個別の課題を伝え改善を促すことができた。他の教職員に対しても進捗状況をしっかりと把握していく。OJT研修を不定期ながら実施することができた。 ・組織の一員としての自覚を促すために、気になるところは随時活字にして示し続けた。実践により沿いフォローアップしながら教職員の意欲を喚起することができている。 ・指導が十分でない教職員に対し、年度末までに具体的な方策を示しながら目標が達成できるようにする。</p>	
	<p>アメンバー(小集団)のリーダーを中心に、実態把握、進捗状況の管理、不安解消、新たな目標設定のためのカンファレンスを行い、強い組織をつくる。</p>		
	<p>道徳の授業の時間確保と指導内容の充実(GTの招聘、考えをつくり交流し深める授業)や評価(賞賛や課題の明確化)によって豊かな心を育む。</p>		
<p>小学校との課題の共有、連携によって強い原北中学校ブロックをつくる。GT招聘年間20人以上、職員・生徒の校区行事参加300人を達成する。</p>			
<p>学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)</p>			

○コロナ禍、夏休み拡大パトロールや歳末パトロール、青バトなどの地域行事にも参加していただいている。
○諸問題の解決など学校の対応が速いし、ネクストステージへの取組も充実している。未然防止策や再発防止策も丁寧を示されている。
○校長先生を中心とした教職員の課題に応じたOJT研修や面談、個々の先生の持ち味を活かした学校経営ができています。
○時代の趨勢を捉えつつも、不易と流行を融合させた、迅速かつ実効的な教育活動が展開されている。
○コロナ禍、学校の情報が少ない中、学校通信や公民館来校時の情報提供を介して、学校の事が短いスパンで届いた。
○直接的には地域に関係のない学校の細かい指導の経過を知らせてもらっているので地域の方への説明がしやすくなった。
また、これまで同様、学校を応援しようと考えている。
△時代は「よのなか科」、道徳や社会人講話で地域人材を有効活用し、心の教育、いじめゼロに向けた取組を更に強化して欲しい。
○校務分掌の再編など、対処療法と体質改善を両輪で捉えた創意工夫ある学校経営が行われている。